

Original Sin

オリジナル シン

知っておきたいキリスト教のことば (69)
原罪 げんざい

「原罪」という言葉は、日本ではあまり使われません。そのため礼拝の説教で「あなたの原罪は…」と言われても、現在・過去・未来の「現在」のことが頭に浮かぶのではないのでしょうか。

しかしキリスト教においては、この言葉は大変重要なものです。みなさんは「アダムとエバの物語」をご存じでしょうか。旧約聖書で最初の人間とされるアダムとエバは、もともとエデンの園という楽園で暮らしていました。神さまは二人に「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう」と命じられます。

しかし二人は蛇にそそのかされて、その実を食べてしまいます。これが人類の犯した最初の罪で、この罪の結果、人間はエデンの園から追放されます。つまり神さまと離れてしまうのです。この罪のことを「原罪」といいます。

アダムの子孫であるわたしたちも、永遠に罪を担い、死の支配を受けなければならない存在です。その人間を救うために神さまが遣わされたのがイエス様でした。イエス様はわたしたちの罪のための贖いとして、十字架の上で血を流されます。そのことによって、わたしたち人間は、原罪から救済されるのです。これが、キリスト教の信仰です。

聖書では、イエス様の十字架を以下のように説明しています。

そこで、一人の罪によってすべての人に有罪の判決が下されたように、一人の正しい行為によって、すべての人が義とされて命を得ることになったのです。(ローマの信徒への手紙 5章 18節)

わたしたちはイエス様を信じることによって、罪の鎖から解放され、神さまのみ手のうちに歩める者となるのです。

次回は「堅信」です。お楽しみに。



「楽園から追放されるアダムとエバ」

ギュスターヴ・ドレ

1832～1888年

こうしてアダムを追放し、命の木に至る道を守るために、エデンの園の東にケルビムと、きらめく剣の炎を置かれた。

(創世記 3章 24節)

